

(様式第1号)

エネルギー供給温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

1 事業者等の概要

氏名又は名称	テス・エンジニアリング株式会社				
代表者名	氏名	高崎 敏宏	役職名	代表取締役社長	
主たる事務所の所在地	〒532-0011 大阪市淀川区西中島6丁目1番1号				
事業者の区分	<input checked="" type="checkbox"/>	条例施行規則第15条第2項に該当する小売電気事業者			
	<input type="checkbox"/>	その他の事業者			
主たる事業の概要	・小売電気事業 ・発電事業 ・コージェネレーション、LNGサテライト設備、太陽光発電設備等のエンジニアリング事業				
電力供給量(総量)	97,017	千kWh	電力供給量(長野県)	892	千kWh

2 計画期間及び報告対象年度

計画期間	2017	年度	～	2019	年度	報告対象年度	2019	年度
------	------	----	---	------	----	--------	------	----

3 公表方法等

<input type="checkbox"/>	ホームページ	
<input checked="" type="checkbox"/>	印刷物の閲覧 (閲覧場所・時間等)	当社大阪本社及び東京支店にて閲覧可能 平日9:00～17:30
<input type="checkbox"/>	その他	

(様式第1号)

4 エネルギーの供給に係る地球温暖化対策のための基本方針

1. 当社の主力商品であるコージェネレーションシステム及び各種省エネ装置を通して、省エネルギーと地球温暖化ガスのひとつであるCO2排出量の削減に貢献します。
2. 汚染の予防、省エネルギー、並びに省資源を推進します。
3. 環境関連法令並びに同意したその他の要求事項を遵守します。

5 エネルギー供給温暖化対策計画の推進に係る体制

品質向上・ISO推進委員会
監理責任者：ISO担当取締役
点検体制：ISO事務局及び外部審査機関による審査，排出係数は環境省への報告審査

(様式第1号)

6 供給するエネルギーの製造等に伴い排出される二酸化炭素の抑制に関する目標等

基準年度	実排出係数	0.000262	t-CO ₂ /kWh
2016年度	調整後排出係数	0.000496	t-CO ₂ /kWh
目標年度	目標排出係数	0.000480	t-CO ₂ /kWh
2019年度	目標削減率	-83.21	%
目標設定に関する説明	今後の電源の調達見込みを踏まえ目標設定した。		
第一年度	実排出係数	0.000267	t-CO ₂ /kWh
	調整後排出係数	0.000453	t-CO ₂ /kWh
2017年度	エネルギーの製造等に伴い排出されたCO ₂ 量	20	千t-CO ₂
排出係数等の増減理由	Jクレジット制度を活用し、CO ₂ 排出量を削減し、調整した為。		
第二年度	実排出係数	0.000240	t-CO ₂ /kWh
	調整後排出係数	0.000627	t-CO ₂ /kWh
2018年度	エネルギーの製造等に伴い排出されたCO ₂ 量	32	千t-CO ₂
排出係数等の増減理由	実排出係数は削減したものの、調整を行わなかったため、調整後排出係数は増加した。		
第三年度	実排出係数	0.000232	t-CO ₂ /kWh
	調整後排出係数	0.000627	t-CO ₂ /kWh
2019年度	エネルギーの製造等に伴い排出されたCO ₂ 量	31	千t-CO ₂
排出係数等の増減理由	実排出係数は削減したものの、調整を行わなかったため、調整後排出係数は増加した。		

(様式第1号)

7 上記6の目標を達成するための措置

再生可能エネルギーの積極的な利用。
 排出量無効化クレジットの活用。
 従来利用されていない排熱を活用した発電設備からの電気の調達の推進（新エネルギー）

8 調達する電気の電源構成に関する見通しと実績

区分		調達する電気の電源構成の割合（W・h比）								
基準年度	石炭火力		%	原子力		%	再生可能エネルギー源 （水力及びFIT電気を除く）	0	%	
	LNG火力		%	水力		%	卸電力取引所 ^{※3}	6	%	
2016	年度	石油火力		%	FIT電気 ^{※2}	71	%	その他（インバランス補給 常時バックアップ、BG間融通等）	23	%
最終年度 における 見通し ^{※1}	石炭火力		%	原子力		%	再生可能エネルギー源 （水力及びFIT電気を除く）		%	
	LNG火力		%	水力		%	卸電力取引所 ^{※3}	15	%	
2019	年度	石油火力		%	FIT電気 ^{※2}	50	%	その他（インバランス補給 常時バックアップ、BG間融通等）	35	%
第一年度	石炭火力		%	原子力		%	再生可能エネルギー源 （水力及びFIT電気を除く）		%	
	LNG火力		%	水力		%	卸電力取引所 ^{※3}	22	%	
2017	年度	石油火力		%	FIT電気 ^{※2}	54	%	その他（インバランス補給 常時バックアップ、BG間融通等）	23	%
第二年度	石炭火力		%	原子力		%	再生可能エネルギー源 （水力及びFIT電気を除く）		%	
	LNG火力		%	水力		%	卸電力取引所 ^{※3}	21	%	
2018	年度	石油火力		%	FIT電気 ^{※2}	54	%	その他（相対契約電源）	25	%
第三年度	石炭火力		%	原子力		%	再生可能エネルギー源 （水力及びFIT電気を除く）	3	%	
	LNG火力		%	水力		%	卸電力取引所 ^{※3}	25	%	
2019	年度	石油火力		%	FIT電気 ^{※2}	52	%	その他（インバランス補給、常 時バックアップ、BG間融通、相 対契約電源等）	20	%
備考										

※1 「最終年度における見通し」欄には、基準年度時点における事業者の電気の調達計画等の見通しに基づき、特定期間の最終年度を算定期間とする電源構成の概算の見込み割合を記載する。

※2 「FIT電気」とは、電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法に基づく認定施設から買い取られた電気で、その調達費用の一部が全電気利用者が負担する賦課金により賄われている電気を指す。

※3 「卸電力取引所」とは、電力の卸取引を行う取引所であって、電気事業法第97条第1項に規定される指定を受けた卸電力取引所を指す。

(様式第1号)

9の1 再生可能エネルギー源により発電された電気の調達量に関する見通しと実績

区分	調達量				再生可能エネルギー源の種類 (内訳)				
					電源	種類別調達量			
	県内分		再生可能エネルギー 電気 (FIT電気を除く)	FIT電気					
基準年度	88,828	千kWh	0	千kWh	太陽光		千kWh	7,312	千kWh
					風力		千kWh		千kWh
					水力		千kWh		千kWh
					バイオマス		千kWh	79,614	千kWh
					その他 (地熱)		千kWh	1,902	千kWh
2016 年度									
最終年度 における 見通し	80,000	千kWh	0	千kWh	太陽光		千kWh	6,000	千kWh
					風力		千kWh		千kWh
					水力		千kWh		千kWh
					バイオマス		千kWh	72,500	千kWh
					その他 (地熱)		千kWh	1,500	千kWh
2019 年度									
第一年度	88,570	千kWh	0	千kWh	太陽光		千kWh	5,018	千kWh
					風力		千kWh		千kWh
					水力		千kWh		千kWh
					バイオマス	480	千kWh	82,866	千kWh
					その他 (地熱)	0	千kWh	206	千kWh
2017 年度									
第二年度	91,340	千kWh	0	千kWh	太陽光		千kWh	4,480	千kWh
					風力	1	千kWh		千kWh
					水力		千kWh		千kWh
					バイオマス	4,608	千kWh	82,108	千kWh
					その他 ()		千kWh	143	千kWh
2018 年度									
第三年度	92,935	千kWh	0	千kWh	太陽光		千kWh	4,299	千kWh
					風力		千kWh		千kWh
					水力		千kWh		千kWh
					バイオマス	4,446	千kWh	82,710	千kWh
					その他 (地熱)		千kWh	1,480	千kWh
2019 年度									
備考									

(様式第1号)

9の2 再生可能エネルギーの普及・供給拡大に関する取組

太陽光発電と蓄電池を組み合わせた需要家の消費電力削減及びデマンド制御のシステムを継続検討する。

10 エネルギーの供給に係る温室効果ガス排出抑制の研究と取組

排熱を有効活用した発電システムの提案。

11 需要家の省エネルギー対策の推進に関する取組

区分	実施内容
高効率機器の普及促進	省エネ提案としてLED照明やトッランナー方式の変圧器を紹介する。
家庭・事業者の省エネルギー対策への協力	需要家に対し、電気見える化サービスを提供し、節電意識を高める。
その他	(将来的に) デマンドレスポンス実施を検討する。

※ 需要家に対して節電や省エネを誘導する料金体系を導入している場合は、「その他」に記載する。

(様式第1号)

12の1 地域との連携に関する取組の実施状況

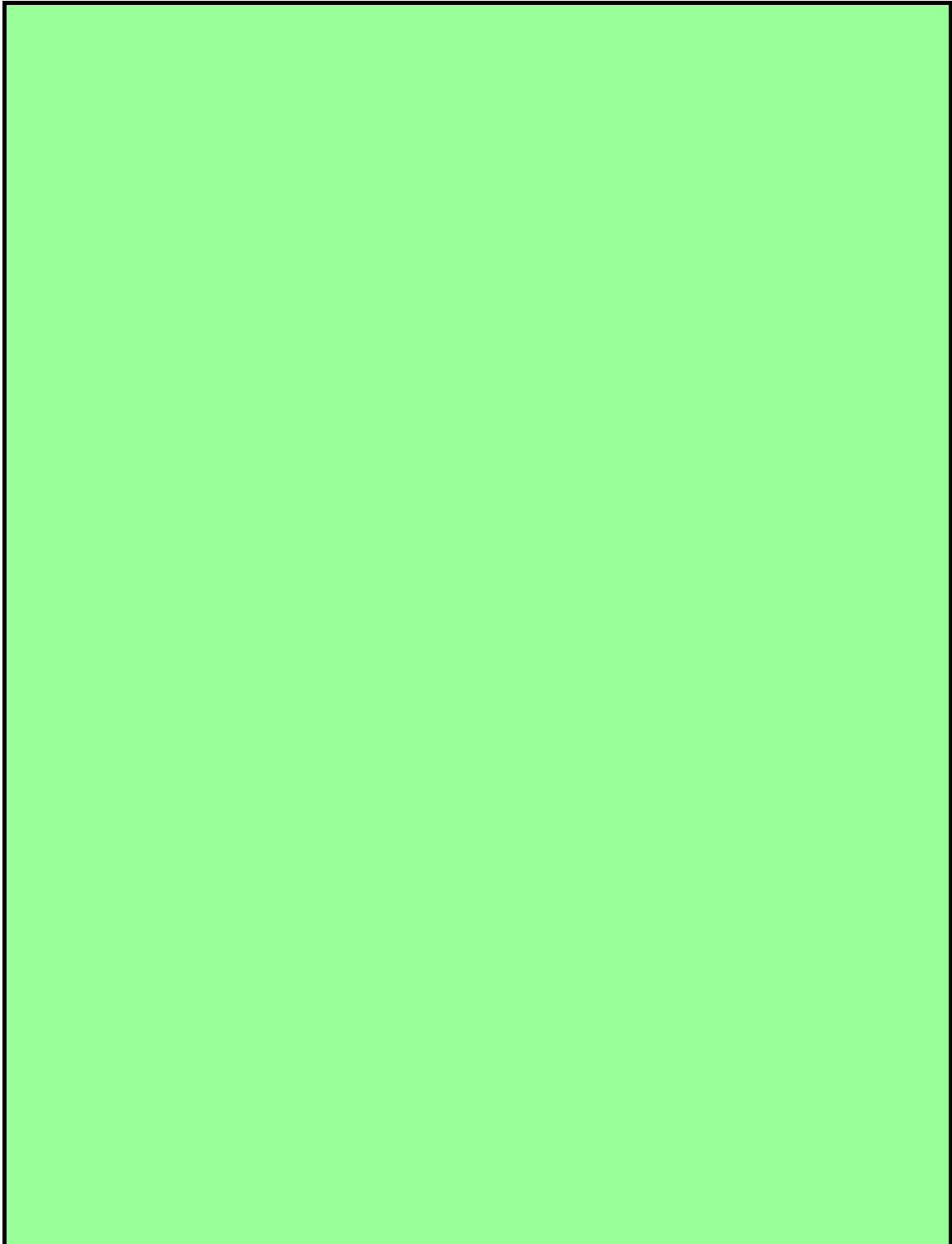
基準年度までに実施した内容	
第一年度実績	
第二年度実績	
第三年度実績	

12の2 その他、温暖化対策に関する取組の実施状況

区分	実施内容
基準年度までに実施した対策	FIT制度による太陽光発電設備の事業実施。
第一年度実績	排熱を活用したコージェネレーションシステムを提案し、2基納入(2,000kW) FIT制度を活用した小型風力発電事業を実施。
第二年度実績	FIT制度を活用した小型風力発電事業を実施。 CGSを提案し3基納入。
第三年度実績	FIT制度を活用した小型風力発電事業を実施。 CGSを提案し6基納入。

(様式第1号)

1.3 自由記載欄

A large rectangular area filled with a light blue color, representing a free text field. The area is bounded by a thin black border and occupies most of the page below the header.